

3 計画の基本方針

緑と水のまちづくりのテーマ及び緑の将来像を踏まえて、5つの基本方針を掲げます。

基本方針① 大切な緑と水を守る

市を代表する豊かな自然環境である多摩川、市街地の生け垣や屋敷林、農地、社寺林、歴史を現在に伝える玉川上水や熊川分水・福生分水、生き物の生活の場所であり、湧水や下の川などの水とまちの安全を支える崖線の緑など、大切な緑と水を、次の世代に残していくために積極的に保全を図り、自然性を保つまとまりのある緑と水の空間を確保してまちづくりを進めていきます。

基本方針② 緑と水をつなぐ

公園緑地、レクリエーション施設などをはじめとする都市施設の緑化、多摩川沿いや玉川上水沿いの歩道整備、街路樹や生け垣設置による道路緑化、民有地における緑化推進など、これらを一体的に取り組むことで、緑と水のネットワーク化による都市機能の有効活用に努めます。また、多摩川や玉川上水、熊川分水・福生分水の水辺環境を保全しつつ、河川整備や散策路整備などにより、水に親しめる空間の整備を推進していきます。

まちの緑と水が、市民にとって身近なものとなるよう、市民が利用できる緑と水を確保して、市民の憩いの場を市内に広げていきます。

基本方針③ 緑と水を感じるまちなみを育む

市民がいつでも身近に緑と水を感じ、ふれあうことができる環境づくりを推進するため、公園や公共施設、鉄道駅など市の顔となる場所に、緑と水の空間を創出します。道路や水路の緑化・親水化を図り、緑と水の軸を充実させます。

緑と水を感じる空間を広げていくために、民有地での緑化を促すとともに、住宅地、商業・工業用地において、それぞれの土地利用の状況に応じた緑化推進に努めます。

ふっさ十景に代表されるような、福生市の魅力を高める緑と水によって形成されている景観を維持しながら、保全していきます。

緑と水が豊かな環境を育てていくためのしくみづくりを進めていきます。

基本方針④ 市民参画により、緑と水を学び親しむ

緑と水の多いまちは、市民・企業・行政がお互いに協力しながらつくり上げることが不可欠です。緑と水に関する認識を高め、その重要性についての認識が深く、積極的に活動する市民を育てるべく、市民への援助や普及啓発活動、緑化支援体制を整え、市民協働による緑と水のまちづくりの推進に努めます。

基本方針⑤ 生き物の生活の場となる緑と水の質を高める

人々の暮らしが快適で、自然あふれる環境が続いていくためには、それらを支える生物多様性に配慮し、生き物が豊かに暮らすことができるまちづくりが欠かせません。そのためには、生き物の生活の場、あるいは生き物が立ち寄ることのできる緑と水の空間となるよう、まちの中の緑と水の質を高めていく必要があります。市内の生き物の状況を把握するための調査を進めていくと同時に、市民と協働しながら、生き物の生活の場の保全・維持管理の推進に努めます。

生き物が豊かに暮らすまちとなるよう、「生物が生活する環境」という視点を持ちながら、緑と水のネットワーク化を進めていきます。